

【今月の問い】

Q. ニュースダイジェスト **2022年6月号** で紹介した以下の記事を読み、以下の①～③について考えよう。

SDGs達成度 日本19位

国連と連携する国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」が、各国のSDGs（持続可能な開発目標）の達成状況をまとめた報告書を発表した。日本は昨年の18位から19位に順位を下げた。データのある163か国を比べた国別ランキングでは、フィンランドが2年連続で1位。上位18位までは欧州勢が占めた。日本は2018、19年が15位、20年が17位で、年を追って順位を下げている。目標ごとの達成状況は4段階で評価され、日本は「ジェンダー平等」「つくる責任、つかう責任」「気候変動対策」「海の環境保全」「陸の環境保全」「パートナーシップ推進」の6つが最低評価だった。新たに最低評価になった「つくる責任、つかう責任」では、1人当たりの電気電子機器廃棄物の多さやプラスチックごみの輸出量の多さが響いた。

（ニュースダイジェスト 2022年6月3日より）

①ヨーロッパ諸国のSDGsランキングが上位なのはなぜだろうか？

②わが国の達成状況が低いゴールを改善するにはどうすればよいただろうか？

③一人ひとりがSDGsを理解し行動できるようにするためにはどのようにすればよいただろうか？

※次ページの解説も参考にしよう！

今月のSDGs

※北九州市立大学 地域創生学群 教授 眞鍋和博先生に、SDGsの達成度について解説いただきました。



SDGs（持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals）

SDGsの国別の達成度ランキングが存在していることを知っているでしょうか。国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」は2016年から各国のSDGsの達成状況のランキング「Sustainable Development Report」を発表しています^(※1)。

2021年のランキングでは、調査した163か国中、わが国は19位となっています。1位フィンランド、2位デンマーク、3位スウェーデンなど、上位はヨーロッパ諸国が占めています。その中でわが国はアジアで最高位となっています。アメリカは41位、中国56位、インドは121位となりました。わが国は2017年に11位となったものの、それ以降はランキングが下がる傾向となっています。

SDGs番号別に見てみると、SDGs5番（ジェンダー平等を実現しよう）、12番（つくる責任つかう責任）、13番（気候変動に具体的な対策を）、14番（海の豊かさを守ろう）、15番（陸の豊かさを守ろう）、17番（パートナーシップで目標を達成しよう）の6つのゴールについては「深刻な課題がある」と最も厳しい評価となりました^(※2)。

これらのゴールの特に課題となった点を見ていきましょう。SDGs5番では、女性の議員数や賃金格差の存在が、SDGs12番では、電子機器の廃棄や廃プラスチックの輸出が厳しい評価となっています。SDGs13番では、二酸化炭素の排出やそれを低減する取り組みについて低い評価となっており、SDGs14番では、海の環境や海の生物の多様性の確保に対して良い評価が得られていません。SDGs15番では、水や陸地の環境保護や絶滅危惧種の状況が、17番では、国際間の財政面の課題が指摘されています。

一方で、わが国が「達成済み」と高評価になったゴールもあります。SDGs4番（質の高い教育をみんなに）、9番（産業と技術革新の基盤をつくろう）、16番（平和と公正をすべての人に）です。SDGsを考える際には課題が目が行きがちですが、これらのゴールについては、世界にも誇れる状況だと言えるでしょう。

ここ1、2年でわが国におけるSDGsの認知度は急速に高まっています。しかし、具体的な行動を起こしている人はまだ少ないという調査結果もあります。2019年9月に開催された国連サミットで、A.グテーレス事務総長は「Decade of Action」を宣言しました。SDGsのゴール年である2030年までに残された時間は長くはありません。取り組みを加速させることが必要です。それには、政府や企業の取り組みだけでなく、わたしたち一人ひとりの行動も非常に重要なのです。この地球上の環境や社会状況が後戻りできなくなる前に、問題の解決に向けて大きなムーブメントを作っていかなければならないでしょう。

*1… <https://dashboards.sdgindex.org/>

*2… <https://dashboards.sdgindex.org/profiles/japan>